

龍ヶ崎市駅周辺集約化

〈リード〉

龍ヶ崎は歴史のある商店街や撞舞、関東鉄道竜ヶ崎線があり、田園風景の広がる、コロッケやトマトが魅力的なまちです。この龍ヶ崎の魅力がもっと大きくなるよう、各地域に広がっている市の機能が駅周辺にまとまっているまちになって欲しいという思いからテーマを設定し、提言書としてまとめました。地域ごとに市の機能が分けられていて、ムダのないまちとなっていけるよう、この提言書が役に立てば幸いです。

〈ワークショップについて〉

- 6月 顔合わせ
- 8月 アンケートの実施
- 12月 課題分析、方針を龍ヶ崎市駅周辺集約化に決定
- 2月 提言

〈テーマ〉

- 「高齢者福祉」
- 「多文化共生」
- 「地域経済」
- 「空洞化」
- 「伝統文化」
- 「水資源の活用による地域再生」
- 「災害」
- 「交通」

〈龍ヶ崎市周辺集約化〉

龍ヶ崎市の中心部では空洞化が進んでいるため、多くの人が日常的に活用する龍ヶ崎市駅周辺にまちの機能や人を集約することで活気のあるまちが実現する。集約化のために8つの観点から個別テーマを設定し、それぞれの効果を思案した。外国人や高齢者、龍ヶ崎の魅力を発信できる商業施設といったまちの機能が駅周辺に集約されることで、住民同士の交流が盛んになったり、経済の循環が生まれ活性化することも見込まれる。駅周辺に集約することにより、市外からの人の流れも生まれると予想され、国籍、世代を超えた交流や地域の魅力発信ができることが期待される。

〈龍ヶ崎市駅周辺の将来像〉

画像出典：Google Earth を加工



活動経緯

第一回 (6/19) 顔合わせ、今後の方針

第二回 (7/7) アンケートの質問の共有

第三回 (10/14) アンケートの結果の共有

第四回 (12/4) テーマの課題分析、龍ヶ崎市駅周辺集約化の提言の共有

第五回 (12/18) 龍ヶ崎市駅周辺集約化に沿って個別テーマをまとめることに決定

第六回 (1/8) 提言書仮作成、改善点の話し合い

第七回 (1/20) 提言発表リハーサル

龍ヶ崎市駅周辺集約化

→駅から1km圏内に商店街の①短時間利用が多い店 ②回転率が高い店 ③駅前にあることで価値が上がる店 ④徒歩利用者が多い店を集約し、町の賑わいを再生する

店の例

- ・まいんコロッケや服部精肉店などのコロッケ屋さん
- ・喫茶ドリームなどの喫茶店
- ・居酒屋ゆうなどの居酒屋

龍ヶ崎市駅周辺集約化

現状、課題

龍ヶ崎市はバスや市内を走る関東鉄道竜ヶ崎線などといった交通網が整備されているため移動が困難になる高齢者などでも移動しやすいという利点がある一方で、各地域を網羅するような交通網ではバスの本数が増加し、運行コストの増大や利用者、バス・電車の運転手の減少などの問題があり、公共交通機関の運用とその利用者数のバランスが課題となっている。

また、龍ヶ崎市駅周辺は長年「賑わい不足」が課題となっており、商業施設や人々の交流拠点の整備が求められている。

龍ヶ崎市駅周辺集約化

あるべき姿、目指す姿

- ・歩いて回れるまち
- ・若者、子育て世代に選ばれるまち
- ・高齢者と若者の間に交流がある、共生している
- ・住みたい、住み続けたいまち
- ・わかりやすい、使いやすい、にぎわいのある駅前空間
- ・地域資源を生かした、魅力あるまち
- ・環境と調和した持続可能なまちづくり
- ・市民が主役で多世代が活躍できるまち

補足

あるべき姿

・歩いて回れるまち なんで？

→高齢者や交通弱者の移動を支えるため

1. 高齢化が進む中で、車に頼らず徒歩や公共交通で生活できる環境が求められている。駅や商店街、公共施設が歩いてアクセスできる距離にあることが、暮らしやすさにつながる

2. 地域のにぎわいと回遊性を生むため

駅前や商店街、公共施設が点在していると、人の流れが分散してしまう。だから、歩いて回れる範囲に魅力的な場所を集約することで、まち全体のにぎわいが生まれる

3. 環境にやさしく、持続可能なまちにするため

徒歩中心のまちは、車の利用を減らして CO₂排出も抑えられる。緑や水辺と調和した、心地よく歩ける空間づくりも大切な要素

4. 若者・子育て世代にも魅力的なまちにするため

ベビーカーでも安心して歩ける道や、子どもと一緒に立ち寄れるお店や公園があると、子育て世代にとっても住みやすいまちになる

地域の空洞化

空洞化

〈選んだ理由〉

身近な地域で実際に起きている問題であり、原因や影響を分析しやすく、さらに自分の立場から解決策まで考えられるテーマだから。また、自分の力で将来が変えられるかもしれないという点に興味を湧いたから。

〈背景〉

近年、日本では少子高齢化や都市部への人口集中が進み、地方や中小都市では人口減少が深刻な問題となっている。その影響で、商店街にあるお店の閉店や空き家の増加など、地域の空洞化が龍ヶ崎市でも見られ、賑わいが失われつつあると感じた。

空洞化

〈問題意識〉

地域の空洞化が進むと、買い物や交通など日常生活が不便になるだけでなく、地域で働く場所が減り、さらに人が離れていくという悪循環が生まれる。また、地域のつながりが弱まり、防犯面や防災面でも不安が大きくなる。このまま空洞化が進めば、将来その地域で暮らすこと自体が難しくなるのではないかという危機感を持った。

空洞化

○現状・課題

- ・龍ヶ崎市街地(商店街の方)の衰退化
- ・市全体の人口減少が空洞化を加速
- ・北竜台・竜ヶ丘に機能分散

→旧市街(龍ヶ崎市街地)が急速に衰退し、人口・商業・都市機能が郊外に分散した結果、中心市街地が空洞化している。

○あるべき姿・目指す姿

- ・駅周辺が市内の中心場所になっている(市の中心が明確)
- ・駅前に行けば生活のほとんどが完結する状態
- ・駅前＝日常 旧市街＝非日常・文化 という構造がある
- ・若者・子供から高齢者まで幅広い年代が共存する

空洞化

・集約するお店の種類(①短時間利用が多い店 ②回転率が高い店 ③駅前にあることで価値が上がる店 ④徒歩利用者が多い店を中心に選出)

→飲食店、カフェ・軽飲食店、生活利便サービス(整体院・薬局)、小売店(洋服のお店)

・集約しないお店

→車前提の業種、大型・目的来訪型の専門店など

空洞化

〈集約による課題解決効果〉

- ・駅前が賑わいの中心になる
- ・人通りが増え、売上が安定しやすくなり、新しい出店などにつながる
→商店街全体の活性化へ
- ・地域全体の経済効果UP(人の流れの増加による)
- ・生活利便性・暮らしの質が向上
- ・龍ヶ崎市のブランドイメージ向上
- ・他地域からの来訪者・移住者へのアピール

牛久沼

牛久沼

〈背景〉

以前、牛久沼の東岸に道の駅を建設する計画がたてられていたが、地盤が適していないなどの理由から中止された。龍ヶ崎市の魅力の一つに牛久沼が挙げられるが、魅力が十分に発信されているわけではない。牛久沼をどのように活用・開発していくべきなのかに問題意識を置き、考えていくこととした。

牛久沼

〈現状と課題〉

牛久沼に行く頻度	良く行く			行ったことがない	
	1	2	3	4	5
龍ヶ崎市	0	13	23	19	44
龍ヶ崎市外	3	10	34	38	184

高校生アンケート結果より

- ・牛久沼に行ったことがない人が圧倒的に多い
- ・龍ヶ崎市外から訪れる人も多い

牛久沼

〈現状と課題〉

牛久沼の魅力（複数回答）	水上アトラクション	多様な野鳥	牛久沼のうな井	夕日
	329	152	156	196

高校生アンケート結果より

- ・牛久沼の魅力は水上アトラクションが人気

牛久沼

〈目指す姿〉

牛久沼を龍ヶ崎市の魅力の一つとして市外からの観光客を呼び込み、龍ヶ崎市の活性化を図ることができれば理想だが、現状牛久沼を観光資源として活用するのは難しい。そこで、牛久沼を観光資源とするための開発をせず、今も牛久沼を利用してくれる人のための開発のみを行うことを提言する。

牛久沼

〈効果〉

牛久沼の開発をしないことで、費用を他の事業にも回すことができ、効率的な龍ヶ崎市の活性化につながる。牛久沼を訪れてくれている人のための開発・環境維持は行い、これからも憩いの場として活用できると考える。牛久沼は龍ヶ崎駅に近いため、集約化とも相性が良い。

牛久沼

○観光客を呼び込まない

市外などからの観光客を増やす開発をせず、知る人ぞ知るスポットとして維持を行う。

○インフラの整備

徒歩以外のアクセスの確立を行い、牛久沼を利用し続けてくれる人のための開発をする。

○清掃・水質の改善

牛久沼周辺のごみの清掃、水質の改善に努めることで、牛久沼に美しいイメージを持ってもらうこともできる。

多文化共生

近年外国人は増加している。

外国人の増加に伴い、日本人とのトラブルや言語や文化、生活習慣の違いから誤解や摩擦が生じる可能性がある。

互いの文化や価値観を理解し尊重し合う多文化共生の考え方が不可欠である。

そのため、多文化共生を進めることは、外国人だけでなく、高齢者や子ども、障がいのある人にとっても暮らしやすい社会づくりにつながると考えた。

現状・課題

社会参画社会参画：外国人住民が地域に参加しにくい
→ 日本語支援・ルール共有・相互理解を進める

情報格差：行政情報や生活ルールが伝わらない
→ 多言語化・やさしい日本語で対応

支援体制：学習や相談の場が不足
→ 継続的で身近な支援を整備

多文化共生社会とは、外国人住民が必要な日本語能力を身につけ、生活ルールを理解したうえで安心して地域に参加できる社会である。

また、行政情報や日本語教育の機会が、多言語ややさしい日本語で平等に提供され、日本人と外国人が互いの文化や価値観を尊重し、共に支え合いながら暮らしている姿が理想である。そこで、情報の伝達不足やトラブルを防ぐために、外国人住民を駅周辺に集約することを提言する。

効果

駅周辺に外国人住民を集約することで、日本語教育や行政支援、生活ルールの周知を効率的に行うことができる。

また、交通の利便性や交流機会の増加により、生活の不安が減り相互理解が深まる。

その結果、支援の効率化と地域全体での多文化共生の推進につながる。

传统文化

伝統文化

〈現状〉

撞舞の開催場所は見晴らしが悪く、近くで見られる人が少なくなっている。

⇒YouTube Live配信で妥協

⇒行ったとしてもはっきり見えない

⇒見れたとしても、人混みが激しい

「現地で見るのが難しい」＝伝統を守るうえで致命的

伝統文化

〈理想〉

YouTube Liveと並行して観覧者数が増加

- ・数値として関心度が測りやすい(探究面でうれしい)

竜宮通りで開催する

- ・神馬も走りやすい・見やすい
- ・360°から見られる
- ・開催場所がわかりやすい

⇒来訪者数の増加や、SNSへの投稿・発信力の拡大も見込める

⇒撞舞に興味関心を持つ契機となる

龍ヶ崎市の交通

背景

龍ヶ崎市の人口減少、少子高齢化に伴い竜ヶ崎線などの龍ヶ崎市の交通がどのように対応していけば良いのか考えなくてはならないと考えた。新型コロナのパンデミックを通して竜ヶ崎線の利用者は減少し、年々増加傾向にあるが、コロナ禍前と比べるとあまり増加しておらず、リモートワークなどの働き方の改革がさらに竜ヶ崎線へ大きな打撃を与えているともいえる。

現状	問題点
値段が高い	普段から通勤する際に往復で500円程度かかり、常磐線を使う人はもっと必要。
本数が少ない	昼間は1本10人乗るかどうレベルで人が少ない時間帯もある。みんながたくさん使う朝・夕方は逆に本数が少なく待ち時間が長い。
後継者不足	後継者になろうとする人が少ない また、増やすにも人件費がかかってしまう。
赤字運転	竜ヶ崎線は毎年赤字になってしまっているののでそこに当てているお金を別の活動で利用する。

竜ヶ崎線廃止！！！！

効果

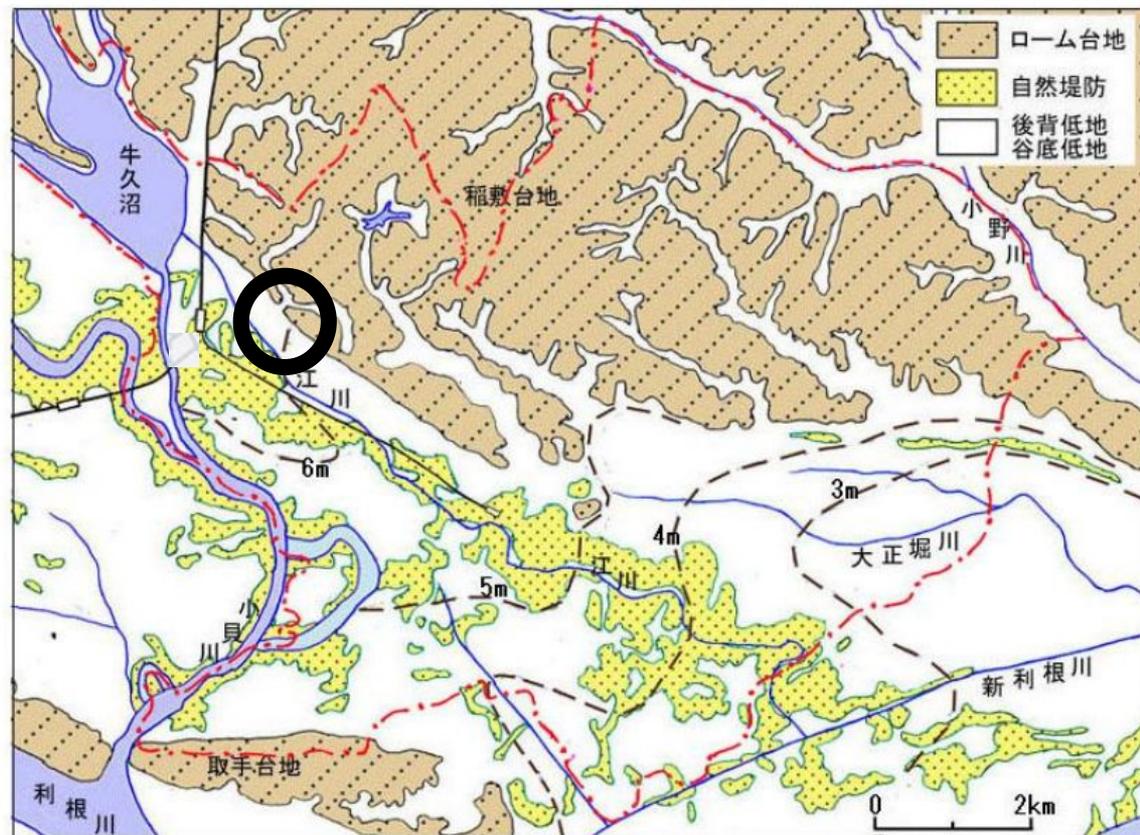
オンデマンド運行×AI×効率化

- ・後継者不足問題解決！
- ・人件費、燃料費、車両点検費の削減により交通費が安くなる
- ・利用者にとっての利便性up

龍ヶ崎市駅のどこに集約するのか
-災害-

龍ヶ崎市駅の位置

龍ヶ崎市駅下総台地(稲敷台地の一部)の縁辺部(台地と低地の境界)に位置



出典: 龍ヶ崎市の土地の成り立ちと自然災害

龍ヶ崎市

○東側/台地 古い堆積地形で**地盤が固く安定**している

西側/低地 水田や湿地、軟弱地盤→液状化

→龍ヶ崎市は稲敷台地にある地域は地盤が強い

龍ヶ崎市駅

○龍ヶ崎市駅周辺＝液状化する可能性のあるエリアが多い

○新興住宅地や低地は盛土

→南側の開発住宅や西側の低地などは液状化のリスクが高い

北東側の台地は切土 →**地盤が安定**している

◎土地利用の歴史

村落や畑地、西側には湿地や水田→住宅や鉄道を開発

→大規模造成住宅地へ発達

凡例【浸水想定区域】

浸水した場合に想定される水深	浸水想定区域
0.5m未満の区域	
0.5m～3.0m未満の区域	
3.0m～5.0m未満の区域	
5.0m～10m未満の区域	
10m～20m未満の区域	
浸水想定区域の特定の対象となる河川	
河川等範囲	



龍ヶ崎市HP小貝川ハザードマップより引用

凡例【浸水想定区域】

浸水した場合に想定される水深	浸水想定区域
0.5m未満の区域	
0.5m～3.0m未満の区域	
3.0m～5.0m未満の区域	
5.0m～10m未満の区域	
10m～20m未満の区域	
浸水想定区域の特定の対象となる河川	
河川等範囲	



龍ヶ崎市HP利根川ハザードマップより引用

駅の東側、北東方面に集約する

+ 高齢者の居住の集約 = 避難しやすい、助けやすい

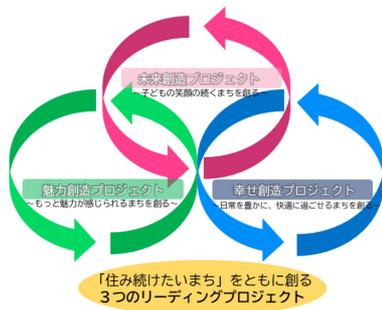
○ 情報伝達が早い

○ ものやひとの移動距離が短い

○ 介護がしやすくなる

地域経済の活性化

茨城県立竜ヶ崎南高校



テーマを選んだ理由(背景・問題意識)

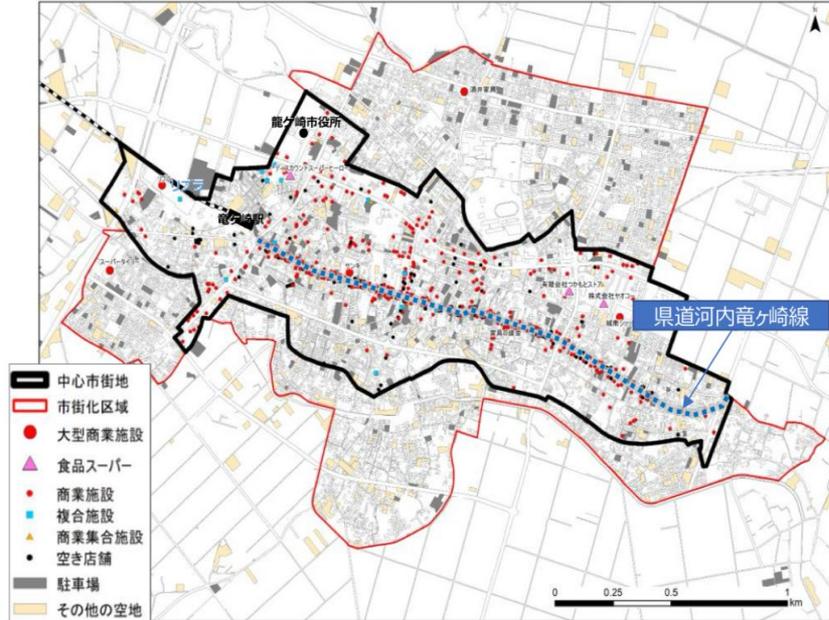
私たちは、龍ヶ崎市の農業や商業に関心があり、地域経済について調べたいと考えました。

「龍ヶ崎みらい創造ビジョン For2030」の政策の柱の一つである

「地域経済の活性化」に着目しました。



■ 中心市街地における商業施設、空店舗などの状況



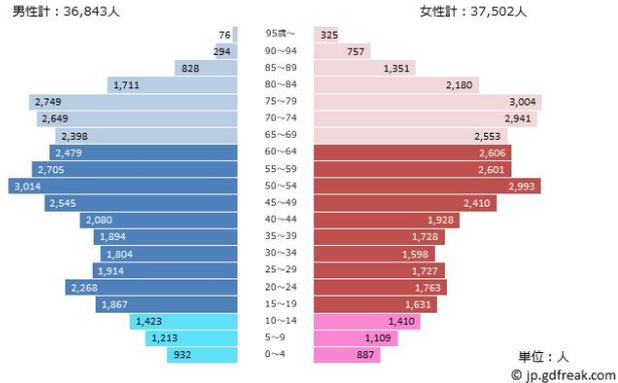
問題としては、竜ヶ崎駅前から約2kmにわたる米町、新町、上町、横町、根町、下町上、下町東、砂町などの商店街がシャッター商店街化しています。

空き店舗増加が1991年から2018年に23軒から65軒へ急増したデータがあり、店主の高齢化や大型商業施設の影響が原因です。

とはいえシャッター商店の二階では住居として生活している店舗が多く、商店街の復興も問題が多くある状況です。

現状(龍ヶ崎市の地域経済)

2025年 龍ヶ崎市の人口構成 (予測)



龍ヶ崎市の地域経済は、製造業を中心とした第3次産業を基盤としている

人口減少と事業所数の縮小が進行

令和3年度の市町村内総生産は2,883億円

- 名目成長率:6.1%
- 実質成長率:6.7%(プラス成長)

総人口は約76,000人

生産年齢人口の減少と高齢化が進行

就業者数は約27,500人

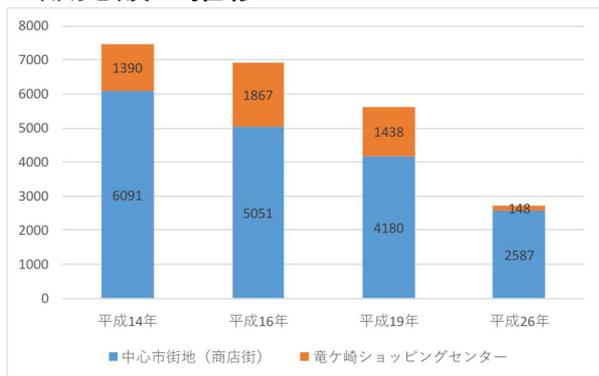
- 第3次産業:69.4%
- 第2次産業:29.6%
- 製造業従業員数:6,650人(最多)

課題(中小企業・雇用・生産性)

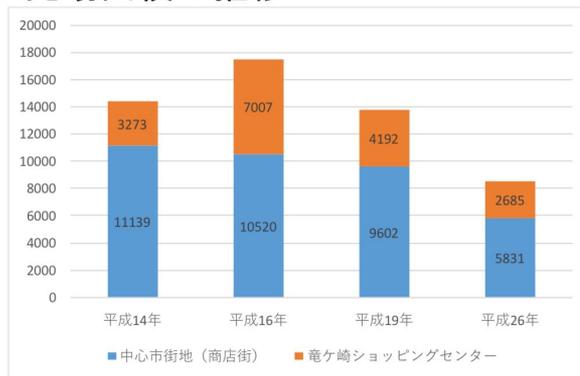
龍ヶ崎市では**中小企業の売上減少や廃業超過**が課題で、市町村民所得は2,301億円、1人当たり3,027千円と県平均を下回り、地域経済循環率も83.3%と**低水準**です。

新型コロナ禍で中小企業の**6割以上**が売上減少し、事業所数は過去15年で約**2割減少**。人手不足を感じる企業は約**5割**で、有効求人倍率は1未満、雇用流出が進み、後継者不足や資金調達困難も顕著です。労働生産性は全国・県平均を下回り、DX推進やBCP策定の遅れも見られます。

■ 販売額の推移



■ 売場面積の推移



あるべき姿・目指す姿

農業発展: トマト栽培のスマート農場を拡大し、若手農家支援により所得の安定化を図る。

収穫体験と即売を組み合わせ、農業の付加価値を高める。

JR駅集約: JR龍ヶ崎市駅に商業・文化ゾーンを形成し、

コロッケや龍ヶ崎トマトを活用したにぎわいを創出。

牛久沼へのサイクリングロードで回遊性を高める。

名産PR: コロッケとトマトを統一ブランド

「龍ヶ崎ファームフード」として発信。

駅前限定販売やイベント連動で認知度向上を図る。



具体施策・広域連携



牛久沼再生

龍ヶ崎側沼畔を水辺公園化し、
ひまわり観光イベント、フェス、ダンスイベントを実施。
JR駅シャトルにより市内周遊を促進。
既存の「ひまわりプロジェクト」を牛久沼畔へ拡張。



名産の同盟協定

コロッケ・トマトで町おこしを行う他自治体と同盟を結び、
相互PRと競争により関心を喚起。

〈事例〉

コロッケ：三島市・高岡市・喜界町

トマト：北本市・川棚町・下川町・日高村

駅前集約による 課題解決効果

(全体イメージ)



龍ヶ崎市の5つの柱

- **農業発展・JR駅集約・名産PR・牛久沼再生・同盟協定**により、地域経済の課題(人口減少・商店街衰退・雇用流出・中小企業廃業)が解決され、

若者定着率向上と経済効果増が期待される。





具体施策と効果



- 人口・雇用課題解決
- 若手農家支援＋駅前商業ゾーンで地元雇用創出
- トマト収穫体験やひまわりフェスで家族層定住を促進
- 商店街・経済循環改善
- JR龍ヶ崎市駅に集約 → 新商業ゾーン売上増、循環率向上
- 中小企業存続率向上を見込む
- 名産PR・観光効果
- 「龍ヶ崎ファームフード」ブランドでコロッケ・トマト認知度 UP
- 同盟協定やSNS合同イベントで購入者・若者参加増を狙う

まとめ



龍ヶ崎市では人口減少や商店街衰退、中小企業廃業が課題となっています。地域経済活性化のため、農業発展、JR駅集約、名産PR、牛久沼再生、同盟協定の5つの柱で対応。若手農家支援や新商業ゾーン、収穫体験・ひまわりフェスなどで雇用・定住促進、売上増、中小企業存続、ブランド認知度向上、観光効果を見込みます。

高齡者

テーマ：高齢者の生活を豊かに

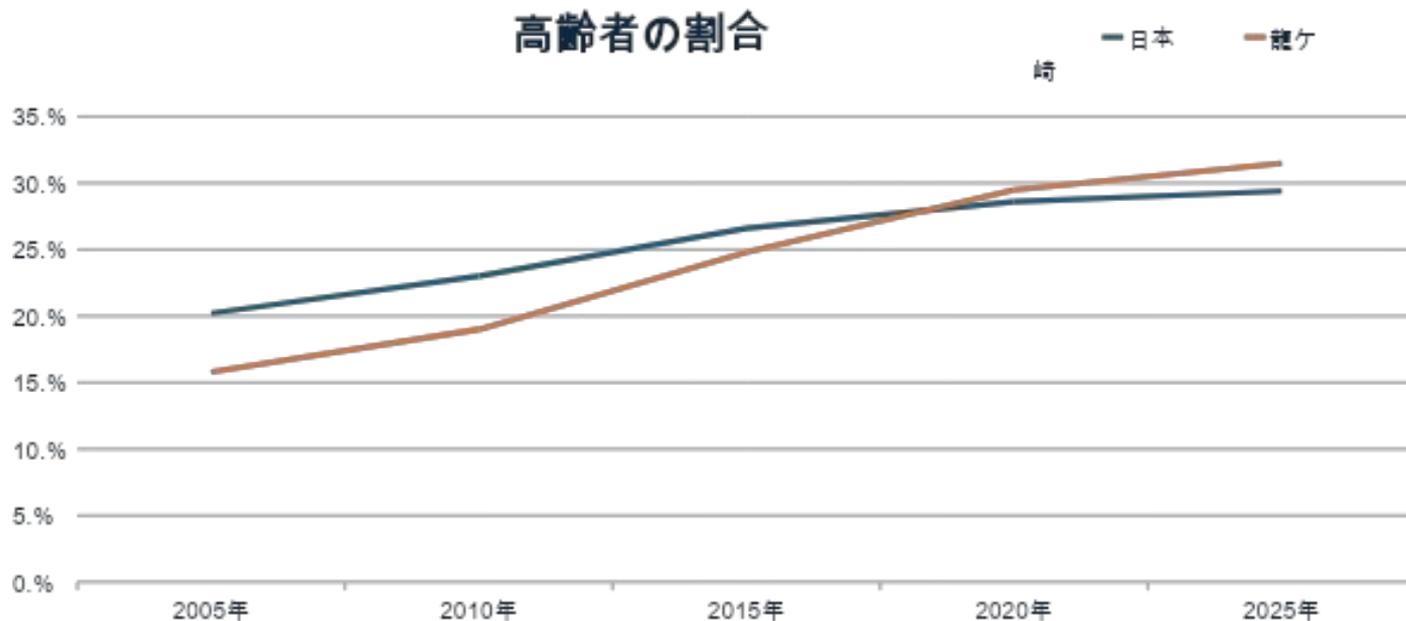
理由

- ①龍ヶ崎には高齢者が多く、コミュニティーセンターなどで高齢者同士で集まっている姿をよくみるから。
- ②学校にコース分けがあり、保育福祉コートというものがあり、そこで高齢者に関することを学んでいるから。

龍ヶ崎市の高齢者の割合

市全体の人口...約74000人

→高齢者...約23000人(高齢化率31.5%)



現状と課題

- ①集まる人が固定されている
- ②外出のきっかけが少ない高齢者がいる
- ③子供との関わりが少ない
- ④孤立してしまう高齢者がいる

あるべき姿・目指す姿

①高齢者の外出機会が少なく孤立しやすいため、気軽に外出して交流できる環境づくりが必要である。

②世代間の関わりが少ない現状があるため、高齢者と子供が自然に学びあえる交流の場が求められている。

③高齢者が役割を持たず生きがいを感じにくいため、「必要とされている」と実感できる社会づくりが重要である。

駅前集約による課題解決効果

駅前近くの学校を活用して高齢者と子供が、「今の遊び」と「昔の遊び」を一緒に楽しみ、交流を深めながら思い出と学びを共有する場をつくる。

(活用場所) 駅前の学校の体育館, 教室

→ 駅から近くて高齢者も来やすい

具体案

①「今の遊び体験コーナー」

▶内容

- ・スマホでTiktokやInstagramでダンス体験
- ・写真や動画を一緒に撮る
- ・クイズアプリで対戦

▶期待できる効果

- ・世代をこえた会話が生まれる
- ・高齢者が新しいことに挑戦できる
- ・子供が教える側になれる

子供たちが先生となり、Tiktokやアプリなどの今の遊びを一緒に体験して世代間交流を深める。

②「昔の遊び体験コーナー」

▶内容

- ・運動系、室内遊び
- *無理のない動きだけにして安全に配慮する。

▶期待できる効果

- ・軽い運動で健康づくりにつながる
- ・一緒に体を動かすことで自然に会話が生まれる
- ・高齢者が教える側になり、役割とやりがいを感じられる
- ・子供たちが昔の遊びを知るきっかけにもなる。

こちらでも高齢者が先生になり、昭和時代にやっていた遊びと一緒に楽しみ健康づくりと世代間交流を深める。

まとめ

- 駅前の学校を活用した世代間交流によって、高齢者の外出機会とつながりを増やし、孤立を防ぎ、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す。

龍ヶ崎市駅周辺の将来像

画像出典: Google Earth を加工

